

# TIJ 日本語教育研究会通信

No.52 2013.9.24 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局  
東京都葛飾区新小岩1-17-10  
Tel:03(5607)4100 / Fax:03(5607)4102  
E-mail tij@tij.ne.jp  
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



2020年東京オリンピック開催という明るいニュースが日本中を駆け巡り、日本の将来に目標と希望ができたと言われます。私たちの日本語教育界もこれを機に活気づくといいですね。

今年も8月6日、7日に日本語振興協会主催の日本語学校教育研究大会が開催され、TIJもポスター発表をいたしました。そのご報告を掲載いたします。

また、7月に中国の高校から中国人の日本語の先生たち4人が、9月には日本の大学生がTIJで研修しました。それぞれレポートを書いてくださいましたので、本号に掲載させていただきました。

次号からこの「TIJ日本語教育研究会通信」を電子版に完全移行したいと思いますので、別紙をご覧ください、お手続きをお願いいたします。

## 【本号の内容】

1. TIJ ホームページリニューアルのお知らせ
2. 日本語学校教育研究大会ポスター発表参加報告
3. 日本語学校教育研究大会報告1 日本語学校留学生8万人のビジョン
4. 日本語学校教育研究大会報告2 日本語能力試験と日本留学試験を考える
5. 日本語学校教育研究大会報告3 非漢字圏学習者のための漢字学習実践報告
6. 日本語学校教育研究大会報告4 ビジネス日本語中間報告
7. 日本語学校教育研究大会報告5 日本語教育スタンダードプロジェクト
8. 中国人日本語教師のTIJでの研修
9. 大学生の教育実習レポート

## TIJホームページリニューアルのお知らせ

TIJホームページのリニューアルがほぼ完成しました。<http://www.tij.ne.jp/>をご覧ください。日本語、英語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、ベトナム語、インドネシア語、ミャンマー語、タイ語、ロシア語、フランス語、スペイン語の12カ国語のページがあります。今後、学生の国籍を徐々に増やして、世界の様々な国から学生が集まってくる場所にしたいと思っています。コースも、長期留学者のためのコース、短期留学者のためのコース、日本で生活している人のためのコース、日本で働いている人のためのコース、日本語教師を目指す方のためのコースがあります。授業風景、行事の様子、卒業生の活躍の様子など、写真もたくさん載っていますし、研究活動の結果の著作物も載っています。これから、さらに内容を充実させていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

## 日本語学校教育研究大会ポスター発表のご報告

今夏の日本語学校教育研究大会において、TIJは大会1日目に「日本語教育スタンダードのcan-doを実現する教材作成の試み」についてポスター発表を行いました。

### ◆研究大会の予稿集資料

#### 日本語教育スタンダードのcan-doを実現する教材作成の試み

発表者：広瀬万里子 佐々木真佐子 中本澄代（TIJ東京日本語研修所）

#### 1. はじめに

数年前に、日本語教育振興協会で、「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」や「日本語教育スタンダード」が話題になり始めたころ、can-do statementsの考え方がTIJ東京日本語研修所の考えていたことと近いことを知った。2006年にTIJが出版した「毎日使えてしっかり身につくはじめよう日本語初級1」は奇しくもcan-doの考え方を取り入れた教材であった。CEFRに関心を持った私たちは、まずCEFRに沿って自校のカリキュラムの全体を見直し、初級から上級までの8レベルの到達目標を明確化した。そして、その到達目標を達成するための教育内容を再考し、それ以前に作成した教材をその中に組み込み、以後も様々なタイプの教材を作成してきた。

#### 2. 昨年までのTIJの教材作成

昨年までにTIJで作成した教材をレベル別技能別にまとめると以下のようなになる。

レベル	I A1	II A2	III B1	IV B1+	V B1+	VI B2	VII B2	VIII B2+
聞く							ラジオ ニュー ス	テレビ のビデ オ

漢字	はじめよう準拠漢字	中級から学ぶ準拠中級漢字			
読む	楽しい読み書き	楽しい中級の読み 1, 2, 3		新聞記事を使った 総合活動教材	上級読解
書く		意見文	日留試記述用教材		
話す	はじめよう日本語 初級 1, 2 *1	はじめよう初 中級	日本語会話中級 I, II *2	ディベート用 教材	プレゼンテーショ ン用教材

\*1 毎日使えてしっかり身につくはじめよう日本語初級 1,2(スリーエーネットワーク 2006 年出版、改訂版 2013 年 6 月発行)

\*2 日本語会話中級 I、II (T I J 東京日本語研修所 1993 年)

### 3. 昨年度後期からの教材作成

今年からベトナムなど非漢字圏の学生を受け入れるに当たり、日振協版日本語教育スタンダードと自校のカリキュラムを照らし合わせたときに、新たな読み書き教材の必要性を感じた。そして、まずは「はじめよう日本語初級準拠漢字教材」(作成進行中)を作成した。それから漢字圏学生ならば学校でやらなくても自然にできるようになる読み書きが、非漢字圏の学生の場合はそうはいかないのではないかと考え、昨年後期から「日常出会う文書に慣れよう初級用(仮称)」を新たに作成し始めた。そして半年間実際にクラスでも使用してきた。

### 4. 「日常出会う文書に慣れよう初級用(仮称)」の作成

日本へ来た直後、学生は日本語の学習がまだこれからであるのにもかかわらず、様々な手続の必要に迫られる。自立して生活するために必要なものとして、以下の場面を考えて、教材化することにした。

場面	言語活動
銀行、郵便局	口座の開設、キャッシュカードの申込書を書く
病院、医療機関	問診票に書き込む お薬アンケートに書き込む、薬袋の指示を読む
家庭	ごみの分別のしかたを理解し、分別する 停電、断水のお知らせを理解する* 宅急便の不在通知を理解し、配達依頼をする* 請求書、領収書を読む*
職場	履歴書を書く
レストラン	メニューを読む*
人間関係	年賀状を書く お礼状、お礼のメールを書く 暑中見舞いを書く
町	表示、掲示、看板の意味が理解できる*

\*については、まだ教材化していない。

こつこつ勉強をしていますが、特に非漢字圏の学生の初級 1、2 のレベルではこのような文書をすべて読み下すことは不可能と思われる。しかし、オリジナルの文書を自力で読んで理解することは困難でも、それに拒否反応を起こすことなく、その中から少しでも自分が知っている、勉強したことを見つけ出して、理解の手がかりとし、対処できるようにと、補助資料とタスクをつけた。

## 5. 授業で使用してみる

実際に先生やクラスメートに年賀状を書く、また、ゴミの分別クイズで、絵で示されたゴミがどの種類にあたるかを考える、というような具体的なタスクは学生も楽しめたようである。「年賀状を書こう」については中国人 6 人、フィリピン、韓国が各 1 名混じったクラスで初級 1 の終了間際に検証を行ったが、充分学習を楽しみ、実際に年賀状を書くこともできた。その他のタスクについては、中国人のみの初級 2 のクラスで使用してみて検証を行ったが、学生の評判は上々だった。

## 6. 今後への期待

今年の 4 月には現実にフィリピン、ベトナム、ネパール、スリランカの多彩な国籍の学生が入学し、中国からの学生とともに留学生として日本語の学習を始めた。彼らには 7 月からこの教材を使用する予定である。使用してみて、より彼らの実情に即した教材になるよう、改訂を重ねていきたいと考えている。また、上の表中でまだ教材化していないもの及び聴解用教材についても、作成していきたいと考えている。

### ◆ポスター発表当日について

当日は can-do を実現するための授業プログラムと TIJ 作成教材を一覧にしたポスター〈別紙：ポスター①〉及び読み教材（『日常会話を文書に慣れよう初級用』よりゴミの分別）と『はじめよう日本語初級』の 4 課・19 課の目次部分（can-do が示されている部分）のポスター〈別紙：ポスター②〉を展示しました。また、そのポスターの下に表に合わせてレベル順に TIJ で作成した教材を並べ、見学者の方が自由に手に取って見られるようにしました。見学者の方には各々展示を見ていただき、質問などには当日参加した講師が個別に対応しました。（ポスター内容は別紙をご参照ください。）

私が応じた見学者の方は、ベトナム・ネパールの学生の増加により、漢字の指導など色々と苦慮されているということで、TIJ が作成した教材に大変興味を持たれていました。『漢字教材』はテキストに準拠しているので印象に残りやすそうだ、書き順があつて自習もできる、『はじめよう日本語初級』はイラストが豊富なので非漢字圏の学生も抵抗感が無いのではという感想をおっしゃっていました。『はじめよう』のベトナム語訳があるかどうか聞かれた（やはりそう来ましたか！）ので、語彙の訳があることと各課のタイトルのページに章のタイトルと言語活動内容（章の can-do 項目）がベトナム語で示されていて学生がどんな内容を勉強するのか確認できることを紹介しました。TIJ でも授業の前に語彙の予習をするよう指導していますが（残念ながら徹底できていないのですが）、ベトナムの学生に対する語彙・文法導入で苦戦することが多くなったとおっしゃっていました。今大会で何度か耳にしましたが、どれも同様の問題を抱えているようです。

以下、当日参加した TIJ の講師が見学者の方から受けた質問を挙げてみます。

## ○授業プログラムについて

can-do について研究しようと思った理由、プログラムを作成する際に参考にしたもの、これらの can-do 項目を選んだ理由、学生にこの一覧表を提示するのかどうか。

## ○教材について

『はじめよう日本語初級』: 具体的な進め方、改訂版の変更箇所、ベトナム語訳の有無。

『漢字教材』: 一回分のボリューム・時間・使い方 (書きも要求するのか)、教科書準拠による問題 (画数の多い漢字と簡単な漢字の提出順序)、非漢字圏学習者への興味の持たせ方、出版予定の有無。

『日常出会う文書に慣れよう初級用』: 使い始めるタイミング、使用頻度。

他に見学者の方から「非漢字圏学習者のために漢字クラスを特別に設けている」、「講座開始時に学生に can-do、シラバスを配布する」、また「非漢字圏学習者の初級から中級に向けてのモチベーションの維持が課題である」といったお話があったそうです。TIJ も非漢字圏の学生が増え、現在私が担当している初級 2 は非漢字圏と漢字圏が半々ぐらいのクラスになっており、同じ教材でも授業のペース、進め方など、色々な点で今までとは違う工夫が求められています。

今後も学生に合わせた教材の改訂・作成が必須ですし、学生一人ひとりのモチベーションを高めるためにも学生自身で can-do チェックができるような機会を作る必要もありそうです。学生が「何ができるようになったか」しっかりと実感できるように、更に試行錯誤が続きます。

佐々木真佐子 (TIJ)

## 日本語学校教育研究大会報告 1

### 「日本語学校留学生 8 万人ビジョン」

8 月 6 日、7 日に行われた日本語学校教育研究大会の今年のテーマは「日本語学校留学生 8 万人を構想する」という新しい視点に立ったものでした。日本語学校を取り巻く環境に閉塞感漂う現状を踏まえて、今回はあえて明るい未来の状況を予想し、それを実現させるために今後どうすればよいか、日本語学校、専門学校、大学、企業の方がそれぞれの立場からビジョンを提言し、そこから日本語学校の今後のあるべき姿を皆で考えるという構成で行われました。

「日本語学校留学生 8 万人」というのは、2008 年に文科省が掲げた「留学生 30 万人計画」が 2020 年に達成され、そのうち 8 万人が日本語学校に在籍しているという予想です。

「8 万人」の根拠は、日振協の維持会員である日本語学校の現在の定員合計によるものです。(現在の在籍者数は 3 万人程度)

この 8 万人ビジョンを支えるキーワードとして、日本語学校の「入口」「在籍中」「出口」が提示されました。日本留学にどんな可能性とチャンスがあるかを明確にしたうえで、学生募集をし、様々な分野への就職をも視野にいれた教育を提供する。そのために日本語学校は多様な状況に対応できる力を備えておく必要があります。

・留学生のニーズが多様化していることをふまえ、従来の語学教育コースだけではなく、

進学・就職に弾力的に対応できるコース（大学の基礎教育や工業日本語・ビジネスマナー等の実践教育）を取り入れること

- ・進学先、就職先と連携を広げ、連続性のある人材教育を提供できるようにすること
- ・上記を備えたうえで、それぞれの学校の特徴を磨き、それを発信していくこと

このように日本留学の入口から出口までのイメージを示し、将来にチャンスを与えられるような日本留学をアピールすることが提言されました。

TIJ は今までも、教育の質の向上や学校の教育理念、学校の特徴を明確にするなど、学校のより良い姿を模索してきました。今回のセッションを聞いて感じたのは、日本留学に明確なビジョンを示すことの必要性です。「日本語をツールとしてその先の展望が描けなければ日本へ来る価値はない」という時代に、留学にかなりの費用をかけて来日する学生たちの将来や、外国人の能力を求めて日本企業が採用の動きを活発化させている現実を見ると、留学生に対して今まさにその後の道筋を示していかなければならないことに気づかされます。そしてそうすることで、TIJ が日本語学校を開校している目的と TIJ の目指すべき将来像もはっきり見えてくるように思います。 オール TIJ でその目的に近づいていけるよう、私たち教師も、バイタリティーを持って次のステップに上っていこうと思います。

北内直子 (TIJ)

## 日本語学校教育研究大会報告 2

「日本語能力試験と日本留学試験を考える  
～日本語教育機関における留学生教育の視点から～」

独立行政法人国際交流基金日本語試験センターおよび独立行政法人日本学生支援機構留学生事業部留学試験課のご担当がいらっしゃり、日本語能力試験と日本留学試験に関する現状報告がありました。ホームページで確認できることもありますが、主な内容は以下の通りです。

### 【日本語能力試験】

- ・受験者数  
全体的には伸びていると言ってよいが、最近の 3 年だけを見ると中国・韓国・台湾で微減。
- ・受験者の目的  
進学のため、就職のためと力試しの 3 つが主。
- ・採点方法  
毎回の難易度が均等になるように調整するために「素点」ではなく、「尺度得点」を採用している。数問正解しても 0 点になったり、数問不正解でも満点になる場合がある。
- ・不正対策  
盗撮屋による問題流出などの不正対策を強化している。
- ・公式問題集  
2012 年に出した公式問題集は 2010 年と 2011 年の過去問題を使ったもの。今後 3~5 年

間隔で刊行する予定。

- ・コミュニケーション能力の測定

問題を改訂したが、コミュニケーション能力を測定するという面では不完全。今のところ会話テストの導入は予定されていないが、研究は続けている。

- ・結果の通知

早く知りたいという希望に応じてオンライン結果通知を導入した。

### 【日本留学試験】

- ・受験者数

震災後大きく減ったが、また少しずつ増えつつある。

- ・利用校数

渡日前試験として利用する学校数が増えていない点につき努力する。

- ・試験内容

日本留学を希望する学生層の変化、非漢字圏の留学生が増えている実態に対応する必要性を感じている。大学との意見交換、情報収集をしていく。

- ・聴読解の難度

上がっているという指摘があるが、難度が上がっているというより、よりアカデミックな内容になっている。文章の関連性を理解して聴く力が求められている。

- ・記述の採点結果

点数だけでなく答案用紙も大学に提供している。

- ・新学習指導要領に対応した新シラバス

平成 25 年 夏頃 「理科」、「数学」の新シラバス(案)を公表

平成 25 年 冬頃 「理科」、「数学」の新シラバスを決定・公表

平成 26 年 夏頃 「総合科目」の新シラバス(案)を公表

平成 26 年 冬頃 「総合科目」の新シラバスを決定・公表

平成 27 年 6 月 平成 27 年度日本留学試験(第 1 回)を実施

(「理科」、「数学」のみ新シラバスによる出題)

平成 28 年 6 月 平成 28 年度日本留学試験(第 1 回)を実施

(「日本語」を除く全科目について新シラバスによる出題)

- ・不正対策

携帯のアラームや呼び出し音など、悪意がなくても不正行為となってしまうケースが多いので、日本語学校でもよく注意して欲しい。

以上が報告です。今後、受験資格として能力試験 N2、留学試験 200 点以上等謳っている大学や専門学校では非漢字圏の受験生増加に柔軟に対応せざるを得なくなると思われます。一方で試験の出題変更に関してはスピーディーな対応は期待できないため、日本語学校としては現状の出題形式の中で得点が伸ばせるように、改めて言うまでもなく漢字、語彙、速読の指導面で努力が求められています。阿字地道代 (TIJ)

## 日本語学校教育研究大会報告 3

「非漢字圏学習者のための漢字学習実践報告を聞いて」

8月に行われた日本語学校教育研究大会二日目に「漢字ストーリーを使った漢字学習」と題された自由研究発表を聞く機会に恵まれました。TIJにも非漢字圏からの学習者が増加し、初級漢字教材を作成するなどその対応に力を注ぎ、指導法に苦慮しているところですので、このテーマに強く関心を持ち、会場に入りました。同様の関心を持つ参加者の方が大勢いらっしゃったようで、座席が足りなくて通路に椅子を置いて、それでも立っている人もかなりいました。

以下は、当日の発表の内容を書きます。

漢字の定着には学習者自身の反復練習が不可欠となるが、従来の漢字指導では自立的な漢字学習ができない。漢字を正しく書き写せない、練習しているうちに形が崩れたり、違う形になってしまう。これは、漢字をパーツに分けられなかったり、小さな形状の差異に気づかないという、形状の認識に問題があると考え、その解決法として「漢字ストーリー」を取り入れたということでした。

初級開始1か月の15名（中国2名を含む）、1日1時間全80回

- (1) 漢字認識テスト1回目
- (2) 書道を取り入れたトメ、ハネ、ハライ、書き順指導
- (3) 教師による「漢字ストーリー」のモデル提示と学習者による作成
- (4) 学習者によるストーリー作成（ペア活動）
- (5) 学習者によるストーリー作成（グループ活動）
- (6) 学習者によるストーリー作成（個人活動）
- (7) 漢字認識テスト2回目

「漢字のパーツ」も「漢字ストーリー」も部首や中国から伝わった成り立ちや意味には関係なく、学習者自身が自由にパーツに分け、イメージ化させて作った絵を組み合わせ、漢字の意味と組み合わせで作ったストーリーを作成したそうです。

詳しくは、予稿集をご覧くださいと思います。

この発表を聞いて印象に残ったことを述べます。

1日目の漢字認識テストは2種類あり、同じ漢字を選ぶテストについては、ある程度予想できるものでしたが（例：持—待を同じと捉える）、漢字の部首認識テストでは、とても意外な捉え方をしているのだと知り驚きました（例：①漢字をパーツに分けないで一つのまとまりとして見る ②パーツの分け方が漢字圏とは大きく異なる。「右」の1画目と2画目は4本の線と捉えている）。実際に学習者がパーツを捉えて色わけしている字を見せてもらい、驚きました。

漢字ストーリーはユニークでおもしろいものができていました。その作り方は漢字をパーツとして捉えるか、全体として捉えるかによって異なるようです。パーツで捉える学習者はいろいろな漢字でもそのパーツがでてくると同じ絵を書いて組み合わせていき、全体



と捉える学習者は、毎回ストーリーを考えるとことでした。どちらの捉え方をするかは学習者が決めることであり、どちらであっても「ストーリー」を考えながら漢字を「見る」時間を増やし、「見る」訓練が必要ということです。どちらのストラテジーを使用しても漢字の形状を正しく認識することができるようになるというテスト結果でした。

またその後、学習者たちは中級に進み、普通の学習スピードで（1日5～10個）漢字学習ができています。

学習者が自分でストーリーを考え、クラスで共有し、楽しく自立学習ができるようになるという実践報告を聞かせていただき大変参考になりました。 中本澄代 (TIJ)

## 日本語学校教育研究大会報告 4

### 「ビジネス日本語カリキュラム・教材開発プロジェクト中間報告」

グローバル人材の需要が高まり、学生の就職ニーズも高まりつつある現在、日本語学校もこれまでの3本柱（日本語力、日本社会・文化対応力、社会人基礎力）に加えて、就職活動支援やインターンシップを含むキャリアデザインを第4の柱とすべきではないか。今年3月の調査では、およそ1/3の日本語学校が何らかの形でビジネス日本語（以下、BJ）教育を行っていると言われているが、その多くは企業委託と留学生向け進学コース内でのBJクラスであった。「日振協版ビジネス日本語プログラム」及び留学生向けBJコースの普及促進に向け、今回いくつかの事例が公開された。発表を聞いてみて、留学生向けBJコースは就職活動支援の要素が濃く、明確な結果（就職）が求められると感じた。

報告によると、BJ教育の実施方法は、既存の進学コースの中でBJを学ぶ、入学時または中級から進学コース・BJコースに分かれる、レベル別のホームクラスを基本に選択クラスでBJを置く等、各校に合わせて考えてよいが、このプログラムを使用する場合は日振協ブランドを守るために教育内容の審査が必要になるだろうとのことだった。学習対象者は日本または自国の日系企業への就職を強く希望する人で、N2レベル以上の日本語力があることが望ましく、日本で就職を希望する場合、学士が必要となる。カリキュラムはビジネスに特化する必要はなく、まずは総合日本語力を養成する。レベルが進むに従い、ビジネス関連の読解・聴解・活動などを取り入れ、その比率を高くする。BJT受験対策、情報収集力養成、履歴書・面接指導等も含まれる。到達目標は新入社員研修が日本人と一緒に受けられるレベルの日本語を身につけることだが、実際の就職はほとんどが中途採用であり、母国語、日本語プラス英語力が必要なことが多く、専門性も求められるようだ。

今後の課題としては、就職活動の準備からエントリーに至るまでのプロセスの構築、企業が求める日本語以外の資質・能力を持つ学生の確保、学生の継続性（就職が決まると学生が退学することによる経営面の影響）、担当教員の確保（日本語とビジネス両方を教えられる人）、学外専門家との協働、インターンシップ先の確保等が挙げられた。

専門学校でビジネス系を学ぶこととの違いを問う質問に対しては、日本語学校はあくまで日本語力の養成がメインであり、他はすでに持っている人を獲得していきたいとのことだった。今後の伸びが期待できる分野ではあるが、クラス成立に必要な数の就職が見込め

る学生をいかに確保するかが一番のポイントになると感じた。日本在住の就職希望者の掘り起こしや企業受託の強化も選択肢になると思われる。 祐川知子 (TIJ)

## 日本語学校教育研究大会報告 5

「日本語教育スタンダードプロジェクト」

私は日本語学校教育研究大会の二日目に行われた「日本語教育スタンダードを考えるプロジェクト発表」にファシリテーターとして参加しました。この約4年間日本語振興協会の「日本語教育スタンダードプロジェクト」の委員と一人として活動してきて、この日の発表がその締めくくりだと考えていました。

日振協の日本語教育スタンダードについては、昨年の TIJ 日本語教育研究会通信 49号でもご報告しましたので、皆様もある程度ご存知かと思えます。CEFR: Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment の略(日本語訳: ヨーロッパ言語共通参照枠)を参考にして作成した、日本語学校で学ぶ学生のためのスタンダードで、到達目標表は、学生のレベルと能力(聞く、読む、書く、話す、漢字)の関係を示したものです。NS1 から NS8 までのレベルがありますが、NS1, NS2, NS3 の部分だけ抜粋したものを本号に添付しましたので、ご覧ください。ただ初級の教科書が終わったから中級だとか、この文法を勉強し終わったから上級だとかいうのではなく、学生が実際にできる能力(can-do statements)でレベルを表しています。

今年度の発表では

(1)日振協版日本語教育スタンダード到達目標表の NS1、NS2、NS3 レベル(日本語能力試験の N5, N4, N3 にほぼ対応するレベル)の can-do statements の例示に書かれているようなことに、それぞれの学校現場が対応しているか、していない場合はどんなことを授業に組み入れれば対応できるかを考えることと

(2)学生が NS1、NS2、NS3 それぞれのレベルに到達したと言えるためにはどんなことができればいいのかを示す「例示」をさらに考えて、その数を増やす作業を行いました。

私は NS2 レベル(日本語能力試験 N4 レベル)のグループに入りました。皆様の現場では、NS2 のレベルに書かれている can-do の例示事項を学生ができるようになるための指導をしていらっしゃるでしょうか。この日このグループに参加された皆様の学校では、「駅名など、短い単語のアナウンスが聞き取れる」「留守電の簡単なメッセージが聞き取れる」「コンピューター(インターネット)の定型文が読めて、操作できる」「メモやメッセージを作成することができる」ようになるための指導はやっていないという方が多かったようです。また、NS2 レベルでできるようになってほしいことの例示としては、

聞くことと①災害速報がわかる ②スーパーのアナウンスがわかる

読むことと①インターネットの路線検索ができる ②券売機、トイレの使い方、機械の使い方が大体わかる ③ごみの出し方やアパート掲示物などの指示が読める

書くことと①履歴書が書ける ②問診票が簡単に書ける ③入管への理由書が書ける

話すことと①出身国の紹介ができる ②道案内ができる

以上のようなことが出されました。TIJでも、学生により実際的な能力をつけてもらうために、勉強会などを開いて授業内容をさらに検討したいと思っています。

広瀬万里子 (TIJ)

## 中国人日本語教師のTIJでの研修

平湖中等專業学校 湯芬霞

7月15日、私とあと3人の日本語教師がTIJ東京日本語研修所に来て、半月にわたって、日本語教育法の研修をしました。実にいろいろと体験できて、勉強になりました。

まずは、TIJの学生の80%以上が中国人であるということに、私が驚きました。今の時期でも、こんなに多くの中国人が日本にいることから、これから、中日両国の関係は必ずよくできると思います。

TIJの学生はみんなかわいいです。日本語を勉強する意欲が強いですから、授業の時、みんなとても真面目です。私の学校の学生がそんな精神の半分でも持っていれば、よかったのと思いました。

そこから分かるのは、外国語を勉強するとき、外部の環境が大切だということです。まわりの人がみんな日本語をしゃべると、自分自身も仕方なく日本語でということになります。生活の面でいろいろな問題が出てくるので、いろいろな場合の使い方を身につけなくてはなりません。必要性がありますから。一方、日本語が上手になるにつれて、学生自分にも達成感が出てきます。

また、TIJの授業の設置もとてもいいと思います。とくに、会話と上級クラスのディベートの授業です。日本語の会話能力、実際の応用能力を効果的に高められます。

そして、TIJの先生たちですが、みんな豊かな教育経験を持っていらっしゃいます。ですから、先生たちの授業は面白いです。いい雰囲気の中で、楽しく知識を身に付けられます。

印象的なのは研修生向けの初級会話の授業です。授業の内容は「～で～があります」でした。先生は身の回りから集めたポスターを教具にして、一つ一つ学生に教えます。たとえば、「江戸川で花火大会があります」とか、「〇〇デパートで、バーゲンセールがあります」とか。文法のほか、発音もよく直してくれます。学生たちがその内容がよくできたら、「～が好きですか」「いつですか」「一緒に行きませんか」とかの質問で、会話を長くします。また、いろいろなやりとり練習で、学生がよく使えるようになります。授業の流れがとてもスムーズに見えました。

面白いのは、新しい単語を提出する場合です。先生たちがみんな日本人ですから、日本語で説明するしかありません。(英語で説明すると、学生が分からないことがあります)。でも、言葉だけでは、説明しても分からない場合がよくあります。その時は、表情、手振りなどで表します。それが仕方がないといっても、日本人の先生はみんな親切だという印象が学生に残ります。

今後、チャンスがあれば、ぜひまたTIJに研修に来たいです。

# 大学生の教育実習レポート

教育実習を終えて

獨協大学 佐藤すみれ

まず始めに、この度教育実習生として受け入れてくださったことに深く感謝いたします。生の日本語教育という場を経験したことがなかった私にとって、毎日が刺激に溢れ、充実した10日間でした。

私が実習先としてT I Jを希望した理由は、学校独自の教授法にあります。オリジナルの話題・場面シラバスの教科書を使い、「いつ、どう使うか」に重点を置いた授業を行っていると伺いました。実際に見学させていただき、特に初級の授業ではただただ驚くばかりでした。教師は生徒との会話から授業を始め、気付かないうちにそれが導入に繋がっていきます。その自然さから生徒は身構えることなく常にリラックスしていて、終始笑い声が絶えません。ゲームやロールプレイを多用することで、一見ただ楽しんでいるようでも実は効果的な会話練習となっていました。そして私が実際に授業を担当しこの教授法を実践することで、それがいかに難しいかということを感じることができました。

連日多くの授業を見学させていただいて思ったことは、どのクラスも学生の皆さんがとても温かいということです。話しかけるとどなたも笑顔で返してくれ、とても素直な印象を受けました。後から伺ったお話によると、これはT I Jの授業のやり方にあるようです。一つのクラスを曜日ごとに3～4人ほどの教師が交代で担当することで、誰が授業をしても安心、そしてだれがクラスに来ても温かく受け入れられるとのことでした。そのため、私が教壇に立ち授業をさせていただいた時も、学生の皆さんが非常に協力的であり、そのおかげで授業が成り立ったのだと思います。

今回の実習では印象に残る出来事がたくさんありましたが、特に忘れられないのは技能研修生の卒業式です。中国から来日し、日本の工場に勤務する前に一か月T I Jで日本語を学ばれていました。私は研修生の皆さんとは直接関わる機会がなかったので、残念なことに卒業式で初めてお会いしました。そこで聴いた皆さんのスピーチにとっても感動し、忘れることができません。家族と離れて日本に来て、それぞれが夢のために一生懸命努力されています。皆さんがとてもキラキラして見えました。心から「おめでとうございます」というと、最高の笑顔で「ありがとうございます」と返してくれ、初めて会ったにも関わらずその喜びを共感できたことを嬉しく思います。同時に、日本語教師とはただ言葉を教えるだけではなく、生徒の生活やこれからの人生をサポートできる素晴らしい職業なのだと感じました。

10日間という短い期間でしたが、感じたものや得たものは計り知れません。また、自分の課題も見つけることができました。お世話になった先生方、そして生徒の皆さんには大変感謝しております。言葉とは、人と人とを繋ぐすてきなものだ改めて思いました。今回の経験を次へのステップとして、かねてからの夢であった日本語教師になれるよう日々努力していきたいと思っております。本当にありがとうございました。